

キリスト者障害者通信

き
ぼ
うNo.84
2024.12.1

特定非営利活動法人兵庫共励会

〒672-8045 姫路市飾磨区中野田四一六一三八

FAX 〇七九一二三五八八一

振替 〇七九一二三五八一

発行所 〇一五〇一五二七五八

印刷所 新 生 会 作 業 所

理事長退任挨拶と今後への期待



廣田守男 前理事長

「願いを起こさせ、実現に至らせる神」

NPO法人兵庫共励会

前理事長 廣 田 守 男

「同じようにあなたがたも、自分に命じられたことをすべて行ったら、『私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです』と言いなさい。」

(ルカの福音書17章10節、新改訳)

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」

(ピリピ人への手紙2章13～14節、新改訳)

理事長(役員) 就任から退任へ

2000年10月、兵庫共励会一泊修養会での定期総会にて、初代会長兼清章牧師が辞任を申し出られ、兼清牧師を名誉会長に推薦し、

小生が会長としての選任を承認されました。

本来ならば当初から副会長であられた内貴八郎右衛門牧師がふさわしいと思っていました。が辞退され、小生が引き受けさせて戴くことになりました(2014年5月に「NPO法人兵庫共励会」の設立が認可され、理事長に就任)。

2024年6月NPO法人兵庫共励会定期総会で、小生の理事長辞任と吉田裕恵姉(日本基督教団喜連自由教会信徒)の理事長選任を承認され、バトンタッチすることが出来ました。感謝しております。

小生が神学校在学中、週番の当番を終了し、次の方にバトンタッチする際、ノートに冒頭のみ言葉が記されておりました。小生の今の

心境も同じです。小心者に果たしてこの重責が全うできるかとの不安と恐れを覚えましたが、良き先輩と役員に恵まれ、会員の方々のご協力により不十分ながら責任を果たさせて戴く事が出来ました。その背後に多くの方々のとりなしの祈りとご協力があったことを覚え、心から感謝しております。

ただ小生の透析治療の曜日の関係で、全ての集会を火曜日から木曜日に変更して頂く事になり、皆さんにご不便をおかけしたことを思います(それ以前は休日を利用していた)。尚、NPO法人設立に至った背後には、古澤輝勝理事の自発的な申し出により、多額の寄付とシオンビルの寄贈を遺言されてご召天になられたことによります。また法人を設立するため、様々な手続きを要しましたが、高野國昭理事の協力があつたればこそと感謝しております。

今後の共励会への期待

兵庫共励会の発足も三島実郎牧師や山口千代子牧師に兼清章牧師、その他信徒の方々の上に志が与えられたのも、次の冒頭のみ言葉の通りに、神様が「願いを起こさせ、実現に至らせて下さる」ことによると共に、その神様の働きに応えて協力された方々の賜物によります。NPO法人の設立も神様からの古澤輝勝兄への働きかけがあったことによります(シオンビルが建てられたことも共励会の会

員であつたご子息の召天を記念とされたことと同様です。

これらのことを覚える時、神様はひとり一人の心に働きかけ、願いを起こさせて下さるばかりか、実現に至らせて下さる御方であり、この神様の導きに信頼し、皆さん方が一生懸命に努力された結果であります。ですから今後、お互いに示されたことを率直に述べ合い、お互いが心に留め、祈りをもって事に携わって戴きたいと思ひます。

以下のことをご考慮戴ければ幸いです。

① NPO法人として今、何をすべきか、何が出来なのか。

② 他のキリスト教関係のNPO法人と何か協力し合えることがないのか。

③ シオンビルと資産の活用方法についてどうしたら良いのか。

④ 休日を利用したプログラムが考えられないのか。

⑤ 新しい方、特に青年たちが協力し合える魅力ある会とするためにどうしたら良いのか。等など。

最後に、NPO法人兵庫共励会が吉田裕恵理事長を中心として、様々と新しい取り組みをし、プログラムを進めてゆかれますように、期待しております。

尚、各地での戦争の終結と分断が解消され、自然災害で被災された方々に慰めと励ましを

祈り、支援の手が伸べられ、一日も早く新型コロナウイルスの終息を祈りましょう。そしてお互いに喜びと希望を持つてクリスマスを通して、新年をお迎えしましょう。皆様の上に神様の祝福をお祈り申し上げます。

(姫路あけぼの教会牧師)

時田直也

チャリティコンサート感想

理事長 吉田裕恵

大いなる方の恵と哀れみの中で、2024年10月10日(木) 日本基督教団 神戸聖愛教会にて開催させていただきました。

理事長就任後初めての事業ですので、事前の準備にも加わりました。開会時の挨拶文も準備して当日を迎えました。

天候に恵まれ、お誘いさせていただいた方や、思いがけない方にもご来場いただきました事に本当に感謝致します。大阪方面から三名の方が来られ、始めて時田氏の歌を聞かれた方から「すごくよかったよ」、「来てよかった、酔っぱらいの話がすごくよかった」、「歌の選曲と構成も良かった」との感想をいただいています。帰りの車の中でも、コンサートの余韻に浸りながら来ていただいた先生と帰

阪に着きました。また、別の方からは、兵庫共励会の働きや今回のコンサートについても良かったという感想をいただきました。

今回のコンサートを開催させていただき、本当に良かったと思います。

理事長をしている事を知った方からは「素敵なグループですね。この会の理事長さんなのです。頑張ってくださいね。応援します。」というお声をいただきました。「また機会があつたら参加させて下さい」というお声もいただきましたので、今後もこのようなコンサートの開催の計画をして行きたいと思ひます。

今回のコンサートで集められた募金は、十万円を超えましたが、当法人の会計からの分も加えて十五万円にして能登半島で地震や洪水で被災された障がいを持って頑張っている方々に神戸国際支縁機構を通して贈らせていただきました。

ご参集された方々の温かいお心に感謝いたします。

私は、子どもの頃から金子みすゞさんの詩が好きで時間さえあれば読んでいました。その中に「わたしと小鳥とすずと」の詩があります。「私が両手を広げても お空はちつとも飛べないが 飛べる小鳥はわたしのよう地面を早く走れない」

私は車椅子なので走れない。子どもの頃は

運動会が大嫌いでした。その分勉強を頑張り、中学校家庭科教師2級免許を取得しました。

これは神様に選ばれ、愛されていたからこそできたと思います。今回のコンサートで時田氏がこの詩に作曲され迫力ある声量で歌っていただき、あの頃を思い出して胸が熱くなりこみあげてくるものがありました。

時田直也氏と関係された方々、ご来場くださった方々に感謝いたします。

そして、今回このような機会を与えて下さった神様に感謝します。ハレルヤ

(日本基督教団 喜連自由教会信徒)

チャリティコンサートに参加して

姫路あけぼの教会

信徒 中島 一 栄

10月10日(木)に兵庫共励会創立50周年記念の時田直也さんのコンサートに行かせていただきました。チャリティコンサートのは教会の掲示板で知り、廣田牧師からも教えていただきました。職場のお友達でクリスマスチャンの藪下さんに声をかけると「行きたい!」と即答だったので10月10日が楽しみになりました。藪下さんも私も時田直也さんのコンサートは初めてでしたが、妹が明石の教会で時田さんの歌声を聴き、とても癒やされ

たと聞いていたので、二人で祈りながら当日を迎えました。

三宮駅から神戸聖愛教会まで秋の空の下、鳥の声をききながら二人で歩きました。午後の光がステンドグラスの窓を通してやさしく包まれた礼拝堂で時田さんがピアノを弾きながら自己紹介をされ歌い出されました。声量がとても力強くとてもやさしい歌声とやさしい笑顔にすぐに引き込まれました。一曲目は「野に咲く花のように」のピアノを弾きながら語りかけるようなやさしい歌声に礼拝堂は包まれました。

コンサートは時田さんの引き語りとお話を交えながら童謡、ドイツ歌曲、聖書のオリジナルの曲を織り交ぜて歌われ進んでいきました。その中で「小さい木の実」という曲とお話から時田さんのお父様に対する深い思いと愛を感じました。

時田さんはお話もとても上手でおもしろくて礼拝堂は笑いに包まれ、時間はあっという間に過ぎました。最後に時田さんのピアノでみんなで「慈しみ深き」と「歌いつつ歩まん」を賛美してコンサートは終わりました。私も藪下さんも大好きな讃美歌が礼拝堂に響きわたりました。

時田さんのトラクトに、「歌うことは希望を語ること、生きることは喜びも悲しみも分かち合うこと」と記されています。一曲一曲

を大切に歌われ、時田さんのいのちの歌を届けていただいた時間でした。

そしてこのコンサートが能登半島地震、豪雨災害で被災された障害をもった方々のためのチャリティコンサートであることを覚え献金させていただきました。被災された方々の痛み、悲しみ、苦しみを神様が共に背負ってください、共に歩いてくださいますようにお祈りさせていただきます。



創立50年記念演奏会のゲスト

(時田直也氏の想い出)

日本基督教団 神戸栄光教会

信徒 矢野幸治

ハレルヤ！兵庫共励会「創立50周年記念」
おめでとうございます。

“いのちの恵みに生かされて”とは、誠に
私達の主に守られ、深い重い時間の流れを憶
え感謝の喜びが溢れるばかりです。

さて、この度の特別ゲストの時田直也氏に
ついてですが、私の記憶からはなはだ
遠く今から50数年前にタイムスリップする事
になります。

当時の私は教会堂のない民家のご自宅を開
放された家の教会（灘教会）に行っておりま
した。青年会では最年長であり、楽しく生き
生きと信仰生活を過ごしておりました。ある
日「日曜学校」の手伝いを牧師から勧められ
ました。ですが自分は祖母と母と私の3人家
族で、兄弟も無く元来引込み思案の性質。

「人と話す言葉」の出来ない事は自分が一番
良く知っていました。続けて牧師先生の一言
があり「やれば出来るものよ。わたしもそう
だったのよ（牧師の仕事）」。一念発起おっか

なびつくりではありましたが「教会学校（日
曜学校）」の手伝いをする事になりました。

年齢は27歳頃です。初めての「礼拝説教（お
話）」これが何とか出来た！この自分でも出
来た（生徒に受け入れられた）。このことが
大きな自信になりました。そして灘区六甲小
学校の前にあった「文房具店」の子供、時田
直也君との出会いとなりました。時田家の父
母は青谷ルーテル教会のよき信徒で直也君だ
けは自宅から近くの「灘教会」に来ていた。
盲目のためいつも手を引いて寄り添っている
友達がいた。知的障がいの子であった。現在
この子は全身介護の一人暮らしである。

救いは「青谷ルーテル教会」で洗礼を受け
た事である。教会学校では数多くの（キリス
ト教以外の子ばかり）子供達が来ていたが何
人救いに与かったか？私の知るところ2人だ
け。直也君との想い出に残るのは「六甲山牧
場」に連れていき「羊」に触らせてあげた事。
教会学校のこうした生徒はわたしにとって
は「子」であり、私は「親」の感覚である。

いつも出会えば「先生」と呼ばれる。なるほ
ど！彼らより「先」に「生」まれているので、
まあいいかと思っている。子の成長や安否は
いつも気にかかります。直也君は大阪音大
楽科を卒業しバリトンという神の賜物を活か
して様々な賞を受賞され福音歌手して大活躍
の生徒です。神様は星野富弘さん同様によき

伴侶を与えられ「時田直也音楽事務所」を設
立し、風はおもいのままに吹く”をキャッチ
フレーズに「風の便り」を発信されています。
この度の共励会50周年記念での再会はCS
生徒（子）と先生（親）の関係を更に深く結
び付けてくれました。この子がなおなお（直
直）神の声の器として益々用いられる事を祈
り願わずにはおれません。

ハレルヤ



ランチヨンの学びから

理事長 吉田裕恵

十一月八日に開催されたランチヨンで白井進先生から盲晴高校生キャンプお話を聞かせていただきました。

その中で、参加された高校生の率直な言葉に、ハットさせられました。私にも、あんな頃があったな。日々の生活の中で、我慢を覚え、自分の思いを表現する機会も少なくなっていたことを。

また、先生のお話の中で、私自身のかつての日の姿を思い出して、走馬灯のように脳裏をよぎってきたのです。それは、地域の学校に通っていた小学生の頃、元気なお友達は歩いて近くの山に登る遠足の日の事です。私は、先生の車に乗り込み目的地に行き、車の中で先生とお弁当を食べて帰って来ました。お友達と同じことが出来ない私は、寂しさと悔しさで心が潰れそうになっていました。

帰宅後、母から「どうだった」と聞かれた時には、本当の気持ちを伝える事が出来ずに「楽しかったよ」としか言えなかったのです。

どうして本当の気持ちを言えなかったのかを思い起こすと、子どもの頃より世間体を気にする両親にいつも気を使っていました。

このことにより、当事者が率直な気持ちを伝

える事が出来る関係性を築き（ラポール関係）、同情されるのではなく、理解者を得ることの大変さと、大切さを改めて考えさせられました。

私事ですが、最初の障がいは「幼い頃に交通事故にあい車にはねられたと」両親から聞かされていきます。次に、大人になって歩いていた時に、転倒して顎を強く打って頸椎ヘルニアになりました。そして車椅子生活になり、車椅子ライフをエンジョイしています。

共励会の理事長として思うことは、障がいと共に生きるのは、本当に試練の連続だということとです。それは、思ったように動けない事、手足のしびれや首肩の痛み、低温火傷をしても感覚マヒがあるために気が付かない、左足小指の骨折にも痛みを感じないのです。

見かけでは分かりにくい障がいゆえに、ジレンマとの共生です。

障がい者に対する同情ではなく、理解者を得る働きを、皆さまとご一緒に進めていける事を願い感謝いたします。

「試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、賞賛と栄光と誉をもちます。」

今日のランチヨンのめぐみをありがとうございます。ハレルヤ 感謝

（日本基督教団 喜連自由教会信徒）

訪問記

山本貴美子・広土ご夫妻をおたずねして

日本バプテスト連盟二見キリスト教会
信徒 谷合公江

四年以上も続いたコロナ禍と、今夏の異常な猛暑がほぼ収まった10月24日、山本貴美子さんと広土さんが入所されている姫路市内にある介護施設に、時間の制限はあるが、面会できると知って、午後2時30分から15分間の面会の許可を取って、穂積修司先生と二人で訪問をしました。

この施設は姫路駅からも穂積先生のご自宅からも近い所にあるので、施設の入り口で待ち合わせをしました。

玄関に入ると、職員と思われる3人の方がおられ、山本さんご夫妻と午前中はマイナ保険証の手続きのために役所に行かれていた事を話され、間もなくこちらに來られる事を告げられました。

お話しくださった方は、貴美子さんから良くお聞きしていた「さぎ草福祉会」を運営しておられる娘さんと息子さんであることが分かり、思いがけない出会いに感謝しました。

程なく、貴美子さんが車椅子で介助され、その後広土さんも車椅子に乗って來られ、ビニールシートの仕切り板ごしの面会となりました。久しぶりの対面は、お互い80才台の老人の

顔合わせでしたが、お二人ともに対応はしつかりされて、お元気そうでした。貴美子さんと共励会で共に奉仕した頃の写真を見ながらお話をすると、貴美子さんは聴力が弱くなり、視力も低下し、記憶力も減少し、共励会での奉仕や出会いも忘れかけていると話されました。

面会時間が限られていましたので、讃美歌の「いつくしみ深き」を歌いましょうと言うと、対話中はずつと頭を垂れた姿勢でおられた広土さんが、しつかりしたお声で歌われました。

続いて「人生の海の嵐に」の1番のみを一緒に歌うと、「それは新生の歌の何番でしたか」と尋ねられ、讃美歌が心の支えであることを知りました。

最後に穂積修司先生にお祈りをしていただき、ビニールシートの仕切り板の下から手を差し出してお互いに握手をかわし、「また、お会いする日までお元気で」とお別れの挨拶をしました。

介護施設でのお二人の生活が「世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる」と言われるインマヌエルの主が、お二人を讃美歌と祈りで支えて下さって、穏やかな日々を過ごすことができるようにと祈りつつ、帰路に着きました。

人生の海の嵐に（新生の歌47）

人生の海の嵐に もまれきしこの身も

不思議なる神の手により いのち拾いしぬ

いと静けき港に着き 我は今安らお

救い主イエスの手にある 身はいともやすし

バス旅行のご案内 神戸須磨シーワールドに行こう

昨年度は、淡路の人形浄瑠璃館に行き、楽しい交流のひと時を持ちましたが、今年度は神戸市須磨区に新しく開園した「神戸須磨シーワールド」に行く事になりました。お誘いあわせの上多数のご参加をお待ちしています。

詳細については、後日ご案内させていただきます。



日 時 2025年3月13日（木）

姫路駅南口9：00と神戸湊川神社前10：30にバスに乗って

シーワールドに直行し、シーワールドで楽しみ、昼食もレストランで食べる

予定です。帰りは、集合した場所までお送りします

今から予定に加えて、楽しみにお待ちしております。

編集後記

クリスマスおめでとうございます。

10月に設立50年記念チャリティコンサートを福音歌手の時田直也さんに来ていただいて開催し、恵まれた時を持たせていただきました。内容については記事を御覧ください。

3月に須磨シーワールドへのバス旅行を計画しています。

参加して良かったと思って頂ける行事を、今後も計画して行きたいと思っています。共励会の今後の活動についてのご意見を、理事までお伝え頂ければ幸いです。

前号「きぼう83号」の記事に誤りがありましたので訂正させていただきます。

7ページ上段の今城輝雄さんがご結婚なさったのは、2025年となっていますが、2005年に、また淳子さんが天に召されたのは2012年ではなく、2022年でした。お詫びして訂正させていただきます。

今号から、字を大きくして、読みやすくするため、紙面をA4版に大きくさせて頂きました。